中上級を教える人のための

日本語文法ハンドブック

白川博之 監修
庵 功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 著

スリーエーネットワーク

中上級を教える人のための

日本語文法ハンドブック

白川博之◉監修
庵 功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘◉著

スリーエーネットワーク

© 2001 by IORI Isao, TAKANASHI Shino, NAKANISHI Kumiko, and YAMADA Toshihiro

All rights reserved. No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, or transmitted in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, recording, or otherwise, without the prior written permission of the Publisher.

Published by 3A Corporation.
Shoei Bldg., 6-3, Sarugaku-cho 2-chome, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0064, Japan

ISBN978-4-88319-201-4 C0081

First published 2001
Printed in Japan

まえがき

この本は、松岡弘先生の監修の下、同じ著者たちが昨年世に送った『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』の中上級編です。

前著（以下、「初級編」と呼ぶ）を執筆中の４人から中上級編（つまり本書）の監修を頼まれたのは、いつのことだったでしょうか。とにかく思いがけない話でした。光栄な話で有り難いとは思うけれども、何しろ自分は「監修」などできるような年回りでもないし、第一、その実力もないから、と最初は二の足を踏んでいました。その私が思い切って大役を引き受けたのは、一にも二にも４人の日本語教育への思いに深く共感したからです。

いわく、日本語文法学界の最新の研究成果を日本語教育の現場の先生方のためにわかりやすく、しかも、体系的に整理して解説した本がなかなかない。願わくば、対症療法的なハウツー物ではなく、そうかといって、日本語教育との接点が見つけにくいような、学問的過ぎる本でもない、いわば、日本語研究と日本語教育の橋渡しをするようなハンドブックを作りたい。ついては、かねがね白川がそのような必要性を説いていたと思うから、ぜひ監修を頼む。そういうことだったと思います。

「日本語研究と日本語教育の橋渡し」－これが我々を結びつける合い言葉でした。意気に感じた私は、非才も省みず監修を引き受けることにしました。

さて、中上級編を監修するにあたって、私が特に気を配ったのは、次の３点です。

①断片的な知識の羅列に終わらず、個々の文法項目を初級編で示した枠組みの中で体系的に整理できるようにする。
②基本的な文法項目は初級編との重複を恐れず取り上げ、使用場面や類義表現に配慮して説明しなおすことにより、「使える」文法知識にする。
③学習者・教師の立場に立った、「かゆいところに手の届く」記述にする。

中上級の教育について、私は前々から次のような疑問を感じていました。初級の文法がある程度体系的に教えられ、教えるべき内容も教師・教科書

に関わらず大同小異であるのに対して、中上級では、個別の語彙・表現の問題に終始していて、「中上級の文法」というものについての共通理解がないに等しいというのが現状ではないか。

もっと言えば、初級から上級までを見通した文法的な説明が欠けていて、初級を教えるときには、来るべき中上級での語彙・表現レベルでの発展・応用まで気が回らず、中級を教えるときは、今度は、初級でやったことと関係づけることなく語彙や表現を詰め込む結果になってはいないか。早い話が、初級と中上級の接続がうまく行っていないのではないか。

こういった問題意識から、①②の方針を打ち出しました。

実は、初級編の監修者の松岡先生も同じような趣旨のことを「まえがき」で記していらっしゃいます。「教師としては、初心者クラスであっても、初級から中級へ、そしてまた上級へと向かっていく教授過程全体を視野に入れ、個々の文法事項や文型についても、より根底的なものに根ざした包括的な理解をもってのぞむことが必要ではないか」。私もまったく同感です。この中上級編ではまさに初級を含めた「教授過程全体を視野に入れて」記述したつもりですので、中上級を教える方はもちろんのこと、初級を教える方にもぜひ読んでいただきたいと思う次第です。

③については、多くを語る必要はないでしょう。いくら学問的に正確で立派なことを書いたつもりでも、記述が専門的過ぎたり、日本語の学習・教授に資するところがなかったりでは、この種の本としては失格だと思います。学問的に裏付けのあることを、わかりやすく、しかも、学習者の掻いて欲しがっている痒いところを外さずに掻く（書く）という方針を徹底しました。

いろいろ御託を並べましたが、我々の思いが実際にどの程度実を結んでいるかは、読者の皆様のご判断を仰ぐほかありません。率直なご意見・ご感想などをぜひお聞かせ頂けたらと思います。また、これを叩き台にしてよりよい文法書が次々に現れてくれれば、我々としてはそれこそ望外の幸せです。

2001年6月

白川　博之

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

本書の使い方

1．全体の構成

本書では、中上級の範囲を日本語能力試験２級以上のレベルとし、必要な文法項目を43のセクションに分けて解説しています。その中の多くは、初級編の個々のセクションの記述を受け継ぎつつ、さらに高度な内容を扱ったものになっています。基本的なことについても、本書で繰り返し述べるようには努めましたが、初級編で詳しく書かれていることがらには、参照記号（→初級編§○）を付してありますので、必要に応じて参照してください。

2．各セクションの構成

各セクションはリード（導入）部分と **これだけは** **もう少し** **もう一歩進んでみると** の３つの段階に分けて記述されています。

リード部分は各セクションの冒頭にあり、ここを読めば、鳥瞰図的にその分野を眺めることができます。

日常の教室活動に必要な文法上の情報は **これだけは** と **もう少し** の部分に書かれています。**これだけは** にはその項目を教えるにあたって最低限知っておくべき情報を挙げてあります。**もう少し** には学習者の習得レベルや興味に応じて提示すると有益な情報が書かれています（項目によってはこの **もう少し** の部分がないこともあります）。類似形式との言い換えの可否なども主にこの部分で取り上げています。なお、セクションによっては最後にまとめとして、そのセクションで取り上げた形式を全体の中でもう一度位置づけています。

もう一歩進んでみると では、そのセクションで取り上げた文法項目についての補足的な情報の他、その項目の理論的な位置付けや、他の文法項目との関連などについて述べています。また、一部には方言文法など、より広い視野に立った記述もあります。

研究上重要な参考文献を簡単な解説とともに紹介していますので、より理

解を深めたいときに利用してください。

3．記号

○　例文が文法的に正しい場合には普通何も付けないで示しますが、特に例文の一部を文法的に正しくない形と比較する形で示すときには○を付けて文法的に正しい形を示します。

×　その例文（または例文の一部）が文法的に正しくないことを表します。

？　その例文（または例文の一部）が、まったく文法的に正しくないわけではないが、不自然であるとする日本語話者もいる場合に使います。

#　その例文（または例文の一部）が文法的には正しくても意図した表現の意味とは異なる場合に用います。また敬語などの誤った使い方によって失礼な感じを与えたりする場合にもこの記号で表します。

{　／　}例文の一部について、比較する形を示す場合に使います

ϕ　ゼロ、すなわちそこには形式がないことを意味します。例えば「彼ϕ、来た？」は、「彼、来た？」を表します。

cf.　参照する語形または文を挙げるときに用います。

→　参照するセクション（§）を示します。

下線　そのセクションで取り上げている形式を示すときに使います。ただし、{　／　}で交替形が示されている場合には省略します。

波線、破線　そのセクションで中心的に扱っている形式の他に強調したい形式がある場合に用います。他に網掛けや枠を使う場合もあります。

＜接続＞には、動詞や形容詞などにその形が後続する場合に、前の動詞や形容詞がどのような形になるかが書いてあります。

辞　辞書形

否　否定形

$V_{マス}$　動詞のマス形語幹（「書きます」の「書き」、「食べます」の「食べ」の部分）

テ　動詞・イ形容詞・ナ形容詞のテ形

[タ]　動詞・イ形容詞・ナ形容詞のタ形

＊ここでいうタ形は普通形の肯定の形（「書いた、青かった、元気だった」）のみを示し、否定の形（「書かなかった、青くなかった、元気ではなかった」）や丁寧な形（「書きました、青かったです、元気でした」）は含みません。

[ナイ]　動詞・イ形容詞・ナ形容詞の否定形語幹

[バ]　動詞・イ形容詞・ナ形容詞のバ形

V [意向]　動詞の意向形

V [可能・普]　動詞の可能形の普通形（plain form）

V$_{ナイ}$　動詞の否定形語幹（「書かない」の「書か」、「食べない」の「食べ」の部分）

V [テイル]　動詞のテイル形

[普]　普通形（plain form）：辞書形、タ形、ナイ形、過去否定形

[丁]　丁寧形（いわゆるデス・マス形）

Na　ナ形容詞

Naな　「～な」で終わるナ形容詞

A　イ形容詞

A$_{中止}$　イ形容詞の中止形

A$_{ナイ}$　イ形容詞の否定形語幹（「小さくない」の「小さく」の部分）

A／Na [語幹]　イ形容詞あるいはナ形容詞の語幹部分
イ形容詞「美しい」の場合は「美し」
ナ形容詞「元気な」の場合は「元気」

N　名詞

Nの　名詞に「の」が後続した形

目　次

まえがき……iii
本書の使い方……v

§1．指示詞……2
1．対話における文脈指示
2．文章における文脈指示
2－1．「これ」と「それ」
2－2．「この」と「その」(1)
2－3．「この」と「その」(2)
2－4．「今」や「ここ」を指す場合
3．指すものを受けるときの形
3－1．「そう」
3－2．「こんな」類と「こういう」類
4．指すものが後から出てくる場合

§2．格助詞(1)－対象－……14
1．に対して－動作・感情・態度が向けられる対象を表す表現－
2．について、に関して、をめぐって－関係する対象を表す表現(1)－
3．にまつわる、にかかわる－関係する対象を表す表現(2)－

コラム　文法化……21

§3．格助詞(2)－手段、原因、根拠、情報源－……22
1．によって、を通じて、をもって－手段を表す表現－
2．で、によって、から、のせいで、のおかげで、のため(に)、に、につき、とあって、ゆえ(に)－原因・理由・根拠を表す表現－
3．によると、によれば－情報源を表す表現－
4．に沿って、に即して、に基づいて－基準を表す表現－

§4．格助詞(3)－状況－……30
1．において、にて、にして、でもって、をもって
－空間的・時間的な位置や境界を表す形式－
2．にかけて、にわたって、を通じて
－空間的・時間的範囲を表す形式－
3．によって、次第で、いかんで、に応じて、とともに
－状況に応じた変化・対応を表す形式－
4．を問わず、にかかわらず
－多様な状況に対して一定であることを表す形式－
5．なくして、なしに、をぬきにして、なしで
－非存在的状況を表す形式－
6．XをYに－付帯状況を表す従属節に相当する表現－

コラム　対照研究(1)－(複合)格助詞－……43

§5．格助詞(4)－その他の形式と一般的な特徴－……44
1．として、にとって－資格・立場－
2．他の格で表される名詞句の順序や範囲を表す「から」と「まで」
3．複合格助詞の様々な形
4．のこと－名詞の性質を変えるために用いる接辞－

コラム　連体と連用……55

§6．並列助詞……56
1．～と～、および、ならびに－全部列挙の形式－
2．～に～－累加や取り合わせを表す形式－
3．～や～（など）、～とか～とか、～やら～やら、～だの～だの
－部分列挙の形式(1)－

4．～といい～といい、～といわず～といわず、～であれ～であれ、
～にしても～にしても、～にせよ～にせよ、～にしろ～にしろ、
～でも～でも－部分列挙の形式(2)－
5．～か～（か）、～なり～なり、または、あるいは、もしくは
－選択的列挙の形式－

コラム　気づかれにくい方言の文法(1)……67

§7．時間を表す表現(1)－テンス－……68
1．主節のテンスの注意すべき用法
2．発見、再認識（想起）を表すタ形
3．静的述語のテンス
4．モダリティ形式のタ形
5．従属節のテンス
6．名詞修飾表現のテンス

§8．時間を表す表現(2)－アスペクト－……82
1．テイル形
1－1．テイル形の基本的用法
1－2．経験・経歴を表すテイル形
1－3．テイル形と「～たことがある」
1－4．完了、反事実を表すテイル形
2．その他のアスペクト形式
2－1．直前・開始を表す形式
2－2．継続を表す形式
2－3．終結・直後を表す形式
3．～ところだ

§9．立場を表す表現(1)
－直接受身文・「YはXがV」型構文・相互文－……102
1．直接受身文と間接受身文

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

2．能動文と直接受身文の使い分け
2－1．動作の受け手（Y）が有情名詞の場合
2－2．動作の受け手（Y）が無情名詞の場合
3．受身と似た意味を持つ「[名詞] を [動詞]」表現
4．「YはXがV」型構文－目的語の主題化－
5．二者の間で相互に行われる動作－相互文—

コラム　「なる」と「する」と「させる」……115

§10. 立場を表す表現(2)－間接的な影響を表す表現－……116
1．間接受身文
2．持ち主の受身
3．受身文と「～てもらう」文・「～てくれる」文
4．「XはYがV」型構文

§11. 立場を表す表現(3)－使役文・使役受身文など－……126
1．様々な使役文
1－1．使役文の基本的用法
1－2．原因を主語にした使役文
1－3．責任者を主語にした使役文
1－4．Yの動作や変化を表す使役文
1－5．その他のやや特殊な使役文
2．使役を含む表現
2－1．使役受身文
2－2．～させてやる、～させてくれる、～させてもらう
3．使役文と他動詞文
3－1．形の対応
3－2．使役文と他動詞文の用法の違い
4．使役と似た意味を持つ「[名詞]を[動詞]」表現

§12. 自動詞と他動詞 …… 144
1．自動詞と他動詞の使い分け
1－1．動作主（Y）の存在の有無
1－2．動作の過程の有無
2．再帰的な他動詞文など
3．自動詞文と類似した意味を持つ表現
3－1．自動詞文と他動詞の受身文
3－2．自動詞文と他動詞の可能文
4．複合動詞と動詞の自他

§13. 授受の表現 …… 160
1．授受動詞とその周辺の表現
2．「(～て)くれる」と「(～て)もらう」の使い分け
3．授受の補助動詞を使うとき・使わないとき
4．授受の補助動詞表現の恩恵を表さない用法
4－1．「～てやる・～てあげる」文の恩恵を表さない用法
4－2．「～てくれる」文の恩恵を表さない用法
4－3．「～てもらう」文の恩恵を表さない用法

コラム　対照研究(2)－授受の表現― …… 173

§14. 可能と難易の表現 …… 174
1．可能はどんなときに使うのか・使わないのか
2．可能形の状態性
3．～得る（うる・える）－可能性を表す表現－
4．不可能を表す表現
5．困難を表す表現

コラム　格の交替 …… 185

コラム　ヴォイス …… 186

§15. 引用表現 ……188
1．動詞型引用表現
1－1．基本形
1－2．可能形・自発形
1－3．受身形
2．名詞型引用表現

§16. 比較の表現 ……198
1．より、に比べてetc.－二つの事物を比較する表現－
2．一番、～ほど～はないetc.－三つ以上の事物を比較する表現－
3．にしては、わりに(は) －基準・標準と比較する表現－

§17. 話し手の気持ちを表す表現(1)－判断－ ……206
1．だろう、まい、と思うetc.、(の)ではないかetc.
2．はずだ、にちがいない、はずがない、わけがないetc.
3．かもしれない、恐れがあるetc.
4．そうだ、という、ということだetc.

§18. 話し手の気持ちを表す表現(2)－義務・勧め・許可・禁止など－ …220
1．べきだ
2．ものだ
3．ことだ
4．その他の表現
4－1．ざるをえない、ないわけにはいかない、必要がある
－「なければならない」との違いが問題になる表現－
4－2．～といい、～ばいい、～たらいい、～ほうがまし
－「ほうがいい」との違いが問題になる表現－
4－3．必要はない、までもない
－「なくてもいい」との違いが問題になる表現－

§19. 話し手の気持ちを表す表現(3)－意志－ ……232
1．意向形（「しよう」）、ル形（「する・しない」）
2．（よ）うとする（意向形＋とする）
3．つもりだ
4．ことにする

コラム　対照研究(3)－「いっしょに行きたいですか」－ ……241

§20. 話し手の気持ちを表す表現(4)
－感嘆・詠嘆、感情の強調など－ ……242
1．なんと～、どんなに／何＋助数詞～、～とは／なんて
2．ものだ、ことだ
3．てしかたがない、てたまらない、かぎりだetc.

コラム　気づかれにくい方言の文法(2) ……251

§21. 話し手の気持ちを表す表現(5)－疑い、確認－ ……252
1．質問を表す表現
2．確認・聞き手の知識の活性化を表す表現
2－1．だろう
2－2．ではないか
2－3．ね
3．疑い・不確実さを表す表現
3－1．か
3－2．かな、かしら
3－3．だろうか
3－4．のではないか

コラム　規範文法と記述文法 ……271

§22. 話し手の気持ちを表す表現(6)－終助詞－……272
1．よ
2．ね
3．よね
4．なあ、わ、ぞ、っけ、の

§23. 関連づけ……282
1．「のだ」の様々な用法
1－1．「のだ」による関連づけ(1)－理由、解釈－
1－2．「のだ」による関連づけ(2)－言い換え－
1－3．「のだ」による関連づけ(3)－発見－
1－4．「のだ」による関連づけ(4)－再認識－
1－5．「のだ」による関連づけ(5)－先触れ－
1－6．「のだ」による関連づけ(6)－前置き－
1－7．関連づけを表さない「のだ」－命令、認識強要－
2．「わけだ」の様々な用法
2－1．関連づけを表す「わけだ」
2－2．「わけだ」を含む否定表現
3．「のだ」と「わけだ」
3－1．肯定文の場合
3－2．疑問文の場合
3－3．否定文の場合

コラム　従属節の文らしさ……299

§24. 否定と疑問の表現……300
1．否定の表現
1－1．基本的な否定
1－2．部分否定
1－3．二重否定
1－4．その他の否定

2．疑問の表現
2－1．通常の疑問文
2－2．前提を持つ疑問文
2－3．否定疑問文

§25.「は」と「が」 ……314
1．「は」と「が」の基本的な違い
2．「は」の用法(1)－主題－
3．「は」の用法(2)－対比－
4．「が」の用法(1)－中立叙述－
5．「が」の用法(2)－総記－
6．「は」と「が」と「ゼロ」
7．述語と格関係を持たない「は」
8．複文における「は」と「が」の係り方

§26. とりたて(1)－主題、対比－ ……330
1．とりたて助詞概観
2．主題を表す表現
2－1．は、ならetc.－主題を表すとりたて助詞－
2－2．とは、というのは－聞き手が知らないものを説明するための表現－
2－3．といえば、というと、といったら、はというと、なら－関連づけて示すための表現－
2－4．だが、のことだが、ということだが－主題的な前置き表現－

コラム　対照研究(4)－「は」と「が」－ ……339

§27. とりたて(2)－限定、付け加え、数量の見積もり－ ……340
1．限定を表すとりたて表現
1－1．のみ、に限り、にすぎない－「だけ」とほぼ同じ意味で交換できる限定表現－

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com